

基本方針 1 新しい家族と出会い、育むことのできるまちをつくる

基本施策 1-1 結婚から出産、子育てにかかる切れ目ない支援の実施

	施策内容	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価	委員会による外部評価	
みらい	①出会い応援事業						
	主な取り組み	・出会い応援イベント等の実施	エ	E	・新型コロナウイルスの影響により、町単独でのイベントは開催しなかったが、みえ結婚支援プロジェクトチーム(南勢エリア)として、みえ出逢いサポートセンター相談員による相談会を10月30日に町協業センターで開催。3組4名の相談があった。 ・一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討	・コロナ禍で想定した事業が実施できていない ・民間事業者等の自主的な取り組み支援も検討されたい	
		・いせ出会い支援センター等との連携による情報発信	ウ	C			
	・三重県と連携した出張相談	エ	D	総合評価			2
保健	②親と子の健康支援						
	主な取り組み	・子育て世代包括支援センター事業の推進	ウ	B	・妊産婦、乳幼児への健診受診率は9割を上回っている。 ・不妊不育治療の申請者は年々増加しており、経時的な支援のニーズは高まっている。 ・一定の効果があり、継続的に取り組む	・コロナ禍で制約があるものの、健康支援に効果があった	
		・不妊不育治療への支援	イ	B			
		・歯とお口の健康づくり	ウ	B			
	・妊産婦、乳幼児への検診・予防接種の助成	イ	B	総合評価			1
保健・教委	③途切れのない発達支援体制の充実						
	主な取り組み	・幼児期健診による早期支援の実施	イ	B	・一部会議が中止となったが、保小中が連携し、システム会議に盛り込んだ内容は実施することができた。支援学校による巡回相談も活用し、支援者のスキルアップを図った。 ・児童発達支援センターの活用はある程度数値が出ており、特に言語療育を活用している。 ・乳幼児健診において、発達に課題のある児を早期発見早期支援につなげている。 ・CLMIについては、保育士の業務多忙により実施に後る向きな状況。 ・一定の効果があり、継続的に取り組む	・保小中連携等、発達支援体制の充実に一定の効果があった	
		・CLM(チェック・リスト・イン三重)の継続実施	ウ	C			
		・途切れのない発達支援システム会議による保小中連携の構築	イ	B			
	・伊勢市児童発達支援センターとの連携強化	イ	C	総合評価			2

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	イベントや相談などへの住民参加	%	7.3	10	15	20	25	30
	《上段:出会い応援イベント住民参加率》 《下段:いせ出会い支援センター利用延数》	件	22	25	30	35	40	45
	実績	% 件		開催無し 12				
保健	子育て世代包括支援センター相談件数	件	325	330	335	340	345	350
	子ども相談、育児相談などの子育て相談件数	件		254				
保健	12歳児のむし歯数	本	1.08	1.06	1.04	1.02	1	0.98
	学校保健統計調査による12歳児平均むし歯数	本		1.03				

事業効果
ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況
A：予定を超えて実施できた
B：予定どおり実施できた(10割実施)
C：予定近く実施できた(8~9割程度)
D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
E：予定の5割未満

総合評価
1：効果的に実施できた
2：ほぼ予定通り実施できた
3：予定通り実施できなかった

基本方針 1 新しい家族と出会い、育むことのできるまちをつくる

基本施策 1-2 楽しい子育てを支えるサポートの充実

保健・教委	施策内容	①子育て世帯のスマイルサポート事業	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・保育所・小中学校給食費の助成 ・高校生への修学支援	イ イ	B B	・保育所の給食費については半額の町負担を継続。引き続き取り組みを行っていく。小中学校の給食費については、半額補助を実施し、保護者の負担軽減を行った。食材等の値上がりにより、給食会計の運営が厳しい状況となっている。 ・R3より、町内に住所を有する高校生の保護者を対象に年間2万円の助成を行った。	・一定の効果があり、継続的に取り組む	総合評価	1	総合評価	1
保健	施策内容	②保育・子育て支援サービスの拡充	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・保育所待機児童ゼロの維持 ・保育所の認定こども園化に向けた調査研究 ・放課後児童クラブの対象拡充	ア エ イ	B E B	・保育所については待機児童ゼロを維持。認定こども園化に向けた調査については行えなかった。 ・児童クラブについては、R4年度より小学5年生まで対象を拡大し充実に努めた。	・一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討	総合評価	1	総合評価	1
	施策内容	③ワーク・ライフ・バランスの実現	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
主な取り組み	・パパママ教室等を通じた男性の育児参加推進 ・働きやすい環境づくりに向けた育児・休業制度の普及啓発 ・男女共同参画意識の啓発	イ イ ウ	B B C	・パパママ教室では、参加者全数が夫婦での参加であり、男性の育児参加を促進できた。 ・新型コロナワクチン接種に合わせたリーフレット配布実施。選挙入場券の性別表記の見直しをおこなった。今後も継続的に取り組む。	・一定の効果があり、継続的に取り組む	総合評価	1	総合評価	1	

指標		単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
保健	子育て支援センター利用者割合 保育サービス未利用者に占める実人数の割合	%	65	65	65	67	67	68
	実績	%		61				
保健	保育所待機児童数 4月時点での待機児童数	人	0	0	0	0	0	0
	実績	人		0				
保健	放課後児童クラブ利用者割合 対象学年の児童に占める利用者の割合	%	40	30	31	32	32	32
	実績	%		26				

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)  
 イ：地方創生に相当程度効果があつた(目標値の8~9割達成した場合)  
 ウ：地方創生に効果があつた(目標値の5~7割達成した場合)  
 エ：地方創生に対して効果がなかつた(進捗がみられない場合)

進捗状況

A：予定を超えて実施できた  
 B：予定どおり実施できた(10割実施)  
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)  
 D：予定には及ばなかつた(5~7割程度)  
 E：予定の5割未満

総合評価

1：効果的に実施できた  
 2：ほぼ予定通り実施できた  
 3：予定通り実施できなかった

基本方針 1 新しい家族と出会い、育むことのできるまちをつくる

基本施策 1-3 未来にはばたく人づくりの推進

保健	施策内容	①幼少期から始める“人づくり”	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・英語スタートアップ事業 ・人型ロボットPepper導入による未来の教室事業 ・自然体験・世代間交流保育事業	イ イ エ	B B E		・ALTの派遣、Pepperの導入により年長・年中児を対象に英語教育を開始し、就学前に英語になじめるよう努めた。 ・世代間交流等については、コロナ禍で行えなかった。	・一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討	総合評価	1	総合評価
教育委員会	施策内容	②確かな学力の育成	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・習熟度別授業の実施 ・GIGAスクール構想を活用した新しい教育活動の推進	イ ア	B A		・一定の効果があり、継続的に取り組む	総合評価	1	総合評価	1
						・全国学力・学習状況調査結果が小学校の国語・算数、中学校の国語で全国平均を上回る結果となった。家庭学習の定着が課題であるため、タブレット持ち帰り学習の強化等を行っている。				
教育委員会	施策内容	③ふるさと教育の推進	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・郷土産業体験事業の拡充 ・ふるさと歴史館での地域学習推進 ・地域キャリア教育の推進	イ イ イ	C B B		・一定の効果があり、継続的に取り組む	総合評価	1	総合評価	1
						・ふるさと歴史館では月1回定期的に講座を開催し、郷土史の学習を行っている。コロナ禍で開催できないイベントもあったが、企画展示を実施している。 ・コロナ禍で中止となったものもあるが、農業体験や木育授業、ビジネスパークや南伊勢高校による出前授業などを地域と連携して実施した。				
教育委員会	施策内容	④地域の学びの場を確保	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・町内図書施設のネットワーク化推進 ・南伊勢高校度会校舎活性化の取り組み	イ イ	A B		・一定の効果があり、継続的に取り組む	総合評価	1	総合評価	1
						・町内図書施設は、町民が利用できる2施設については町ホームページから検索できるように。広報やSNSでも周知。 ・総合探求授業(キャリア教育)として、観光マップ、空き家マップ、町PR動画、特産品レシピの作成を行うことで、地域と連携し、高校及び地域の活性化を図った。入学者数の増加には至っていない。				

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
教委	学習習慣に関する意識調査結果	%	69.9	72	75	80	85	90
	平日の自主学習を1時間以上と回答した割合《上段:小6、下段:中3》		53	60	70	80	90	100
	実績			79.7 59.6				
教委	児童・生徒と地域の交流状況	%	70	75	80	80	80	80
	地域行事への参加率 《上段:小学生、下段:中学生》		71.3	75	80	80	80	80
	実績			68.1 64.6				

事業効果

- ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
- イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8～9割達成した場合)
- ウ：地方創生に効果があった(目標値の5～7割達成した場合)
- エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況

- A：予定を超えて実施できた
- B：予定どおり実施できた(10割実施)
- C：予定近く実施できた(8～9割程度)
- D：予定には及ばなかった(5～7割程度)
- E：予定の5割未満

総合評価

- 1：効果的に実施できた
- 2：ほぼ予定通り実施できた
- 3：予定通り実施できなかった

基本方針 2 ひとの動きを生み出し、つながり交流できるまちをつくる

基本施策 2-1 地域資源の積極的な活用

産業	施策内容	①地域資源を活かした人の流れの創出	事業効果		自己評価		取組実績と今後の課題		行政内部による評価		委員会による外部評価	
	主な取り組み	・自然体験型アクティビティによるPR	エ	E	・コロナウイルスの影響で事業実施を断念した。今後は「withコロナ」での新たな事業展開が求められている。	実施手法等を検討	総合評価	3	総合評価	3		
		・町の歴史文化を魅せる誘客促進	エ	E								
		・関係人口の創出事業	エ	E								
産業	施策内容	②宮リバー度会パークの魅力向上	事業効果		進捗状況		取組実績と今後の課題		行政内部による評価		委員会による外部評価	
	主な取り組み	・宮リバー度会パーク周遊プランの実施	エ	E	・ランドゴルフ場、東屋、貸農園の獣害対策フェンスを整備し、公園施設の充実を図った。 ・園内樹木は、危険木の伐採等を行った。R4～樹木の生育状況に応じた管理を実施予定。 ・周遊プランはコロナウイルスの影響で事業実施を断念した。	一定の効果があり、継続的に取り組む 未実施項目については手法等を検討	総合評価	2	総合評価	2		
		・ランドゴルフ場や東屋など新たな憩いの場の活用	イ	B								
		・貸農園の整備拡充および園内樹木の適正管理	イ	C								
・物販施設の拠点整備		エ	E									
総務	施策内容	③遊休施設の活用推進	事業効果		自己評価		取組実績と今後の課題		行政内部による評価		委員会による外部評価	
	主な取り組み	・旧小学校など町遊休施設の活用推進	ウ	B	・公共施設総合管理計画の更新により、今後の活用方針を整理。業務発生に伴い、遊休施設の活用を提案。未利用地の整理、活用、処分、旧一之瀬小については、維持・利活用の促進を図る必要あり。	一定の効果があり、継続的に取り組む	総合評価	1	総合評価	1		

指標		単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
産業	宮リバー度会パークへの入込客数	千人	176	180	180	190	190	200
	宮リバー度会パークを訪れた延べ人数	千人		39				
産業	物販施設での年間売上額	千円	1,600	1,650	1,650	1,700	1,700	1,700
	いらっ茶いわたらいでの年間売上額	千円		1,250				

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)

イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8～9割達成した場合)

ウ：地方創生に効果があった(目標値の5～7割達成した場合)

エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況

A：予定を超えて実施できた

B：予定どおり実施できた（10割実施）

C：予定近く実施できた（8～9割程度）

D：予定には及ばなかった（5～7割程度）

E：予定の5割未満

総合評価

1：効果的に実施できた

2：ほぼ予定通り実施できた

3：予定通り実施できなかった

基本方針 2 ひとの動きを生み出し、つながり交流できるまちをつくる

基本施策 2-2 交流人口増加に向けた体制の強化

	施策内容	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価	委員会による外部評価	
産業	①タウンプロモーションの推進						
	主な取り組み	・著名人を活用した魅力発信 ・世代に応じた多様な情報発信	ウ イ	D B	・ふるさと親善大使の委嘱式は、コロナウイルスの影響で延期。R4に委嘱予定。 ・SNS、HP、情報配信サイト等を積極的に活用し、幅広い年齢層に向け情報発信を実施。	・一定の効果があり、継続的に取り組む 総合評価 2	・情報発信の多様化等、タウンプロモーションに一定の効果があった 総合評価 2
産業・みらい	②広域連携による誘客促進						
	主な取り組み	・サニー3町連携による事業展開 ・伊勢志摩定住自立圏域での誘客促進 ・伊勢志摩コンベンション機構との連携推進 ・三重県南部地域連携による活性化事業	イ イ ア イ	B B A B	・サニー3町連携事業では、町の特産品を食材にしたオンラインでの料理教室を開催するなど、新たな試みに挑戦した。 ・伊勢志摩コンベンションと連携し、映画ロケ誘致に成功。R4～はロケ誘致の事業規模を拡大する。 ・三重県南部地域連携による活性化事業について、三重県南部地域活性化基金を活用し、度会町営バス運行実証実験業務を実施。	・一定の効果があり、継続的に取り組む 総合評価 1	・映画ロケ誘致やバスの実証実験等、新たな動きもみられ、誘客促進に効果があった ・町営バスについて効果が期待でき、今後も力を入れられたい 総合評価 1
	③産官学連携による地域人材の育成						
	主な取り組み	・南伊勢高校度会校舎活性化の取り組み ・大学や企業と連携した地域課題の解決、人材育成	イ イ	C C	・コロナ禍により、実施できるものに制限がある中で、中国の高校生との交流や、在日ロシア大使館臨時代理大使の講演会への招聘など、国際的な交流や、地元小中学校への出前授業など町内外との交流を実施した。 ・皇學館大学と包括連携に関する協定書を締結した。また、共生学で町紹介をWebにて行った。	・一定の効果があり、継続的に取り組む 総合評価 2	・コロナ禍で制約があるものの、地域人材の育成に一定の効果があった 総合評価 2
みらい	④再生可能エネルギー事業による交流推進						
	主な取り組み	・事業見学や事業視察の受け入れ	ウ	C	・鳥取県伯耆町より視察の申込みがあったが、新型コロナウイルスの感染により、延期となった。 ・横浜ゴム伊勢工場と企業の森の取り組みを実施。	・一定の効果があり、継続的に取り組む 総合評価 2	・企業の森ができる等、再エネ事業推進に一定の効果があった 総合評価 2

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	パブリシティの年間件数	件	50	55	60	65	70	75
	PR活動として、報道機関に対して提供した情報件数	件		47				
産業	産官学連携事業への参加者数	人	10	12	14	16	18	20
	高校や大学との連携事業に参加した生徒数	人		0				

事業効果  
 ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)  
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8～9割達成した場合)  
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5～7割達成した場合)  
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況  
 A：予定を超えて実施できた      B：予定どおり実施できた（10割実施）  
 C：予定近く実施できた（8～9割程度） D：予定には及ばなかった（5～7割程度）  
 E：予定の5割未満

総合評価  
 1：効果的に実施できた  
 2：ほぼ予定通り実施できた  
 3：予定通り実施できなかった

基本方針 2 ひとの動きを生み出し、つながり交流できるまちをつくる

基本施策 2-3 移住・定住の促進

みらい	施策内容	①移住者・定住者への支援	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
		主な取り組み	・移住・定住促進事業補助 ・東京圏からの移住者に対する補助	ウ	C	・R3の移住・定住補助金交付件数は、24件。うち移住者は、16件。また、東京圏からの移住者が1件あり、令和4年度に移住・就業マッチング支援事業の補助金を交付予定。	一定の効果があり、継続的に取り組む		・町外からの移住者の増加等、効果があった ・多面的な取り組みを実施されたい	
					総合評価		2	総合評価	2	
みらい	施策内容	②“わたらいふ”プロモーション事業	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
		主な取り組み	・移住相談会、移住セミナー、まち案内の実施 ・移住者さん交流会事業 ・伊勢志摩圏域魅力発信事業	ウ エ ウ	D E C	・新型コロナウイルスの影響により、参加を予定していた移住相談会自体が中止となった。伊勢志摩地区移住プロモーションとしては、移住フェアがweb上での開催となり、7月に5市町合同での実施となった。	一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討		・コロナ禍で制約があるものの、Webを活用する等、一定の効果があった	
							総合評価	2	総合評価	2
みらい・産業	施策内容	③空き家等の活用	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
		主な取り組み	・空き家バンクの運営 ・農地付き住宅活用による新規就農者の確保 ・多様なかたちでの空き家活用	イ ウ エ	B D E	・R3は、4件の空き家物件が成約となった。空き家物件をを求める問合せに対して、登録物件が不足している状態が慢性的であったが、この課題へ満足に取り組めていなかった。 ・今後は、町内空き家所有者へのPRを強化していく。	一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討		・空き家の活用に一定の効果があった ・未実施項目については手法等を検討されたい ・移住と合わせて継続し取り組まれたたい	
							総合評価	2	総合評価	2

指標		単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	移住・定住施策を通じた移住者数	人	40 見込み	44	48	52	57	62
	実績	人		24				
みらい	空き家バンク成約件数	件	3 見込み	4	5	6	7	8
	実績	件		4				

事業効果  
 ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)  
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)  
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)  
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況  
 A：予定を超えて実施できた  
 B：予定どおり実施できた(10割実施)  
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)  
 D：予定には及ばなかった(5~7割程度)  
 E：予定の5割未満

総合評価  
 1：効果的に実施できた  
 2：ほぼ予定通り実施できた  
 3：予定通り実施できなかった

基本方針 3 地域資源を活用し、にぎわいのあるまちをつくる

基本施策 3-1 働く場の創出

産業	施策内容	①新たな雇用の創出	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
		主な取り組み	・創業支援補助制度の創設 ・優遇制度による設備投資や雇用の促進 ・商工会等と連携した創業支援	イ ア イ	B A B	・創業予定者の店舗改修、備品購入等の経費に対して、2分の1以内(上限50万円)で補助事業を新たに設けたものの、まだ活用実績がない状況。 ・設備投資に関しては7件が関係法令による支援制度を活用した。	総合評価	1	総合評価
産業	施策内容	②事業継続支援	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
		主な取り組み	・小規模事業者経営改善資金利子補給補助	イ	B	・町商工会を通じて対象者となる小規模事業者経営改善資金(マル経融資)借入者を取りまとめ、同資金の利子額に対して、2分の1以内で補助を行った。R4以降も補助事業を継続予定。	総合評価	1	総合評価
産業・みらい	施策内容	③広域連携による就労促進	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
		主な取り組み	・伊勢志摩定住自立圏域での創業支援 ・南三重地域就労対策協議会での若者就労支援 ・地域経済牽引事業促進協議会伊勢志摩部会での企業誘致活動	イ イ エ	B B E	・南三重地域の16市町と連携し、Uターン就職などの就労対策を実施。「就活ナビ」サイトを充実させ、町職員も同サイトから募集した。今後は、参画してもらえる町内事業者の掘り起こしが課題。	総合評価	1	総合評価
みらい	施策内容	④再生可能エネルギー活用事業	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
		主な取り組み	・地元事業者の関連雇用促進	イ	B	・風力、太陽光発電事業について、工事において地元事業者への発注機会が創出され、雇用の安定化につながっている。主要工事完了後は維持管理等において関連雇用を促進する。	総合評価	1	総合評価

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	町内製造業従業者数	人	269	275	275	280	280	285
	工業統計に基づく4人以上事業所の従業者数	人		285				
産業	創業・設備投資件数	件	2	2	2	2	2	2
	半島振興法や生産性向上特別措置法等の支援制度による創業・設備投資の新規件数	件		7				

事業効果
ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況
A：予定を超えて実施できた
B：予定どおり実施できた(10割実施)
C：予定近く実施できた(8~9割程度)
D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
E：予定の5割未満

総合評価
1：効果的に実施できた
2：ほぼ予定通り実施できた
3：予定通り実施できなかった

基本方針 3 地域資源を活用し、にぎわいのあるまちをつくる

基本施策 3-2 地域産業の振興

産業	施策内容	①新たな特産品の開発	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
		主な取り組み	・薬用作物の産地化推進 ・新たな転作奨励作物の開拓	ウ ウ	C C	・カノコソウ、トリカブト、ドクダミの試験栽培を行い、カノコソウについては、少量ではあるが出荷し、販路開拓を行うとともに栽培手順書を作成した。 ・出荷先の開拓やこれら薬用作物の栽培面積拡大を行う必要がある。	総合評価	2	総合評価	2
産業・総務・みらい	施策内容	②地場産業の振興	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・伊勢茶プロモーションによる茶業の振興	エ	E	・業務の効率化・充実を目的に民間活力を導入し、業務を委託。寄附サイトの追加、事業者との調整などにより寄附額が増加した。町産の再エネ由来の電気を電力ポイントとして返礼品化したことも大幅な増額の要因となり、加えて地方創生・脱炭素社会の取り組みに大きく寄与した。今後もさらなるPR、返礼品の拡充に取り組む。 ・コロナ禍の影響で伊勢茶プロモーション事業ができなかった。給食で町内産のじゃがいも、ブルーベリー、おでん大根、なばなを使用。	行政内部による評価		委員会による外部評価		
		・お茶文化の醸成による消費拡大	エ	E		一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討		コロナ禍で制約があるものの、ふるさと納税の増加等、効果があった		
		・ふるさと納税を活用した特産品PR	ア	B		総合評価		2	総合評価	2
		・給食による地産地消の推進	イ	B		総合評価		2	総合評価	2
・異業種連携の推進	ウ	D	総合評価		2	総合評価	2			
産業	施策内容	③林業振興と県産材の活用	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・林道等整備による施業効率の向上	ウ	C	・件数は少ないものの、林道川上線路面改良や林道鶴ガ坂線開設等の予定していた事業は実施している。	行政内部による評価		委員会による外部評価		
		・出荷奨励策の利用促進	エ	D		一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討		林道整備等、林業振興に一定の効果があった ・未実施項目については手法等を検討された		
・木製品の開発・販路開拓の支援		エ	E	総合評価		2	総合評価	2		

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
産業	特産品の商品化数 町内特産品を商品化した件数(積み上げ)	件	3	3	4	5	5	6
	実績	件		5				
総務	ふるさと納税額 ふるさと納税として納められた年間額	千円	10,697	12,837	14,976	17,116	19,255	21,394
	実績	千円		53,000				
産業	出荷奨励策の利用実績 出荷奨励対策事業補助金(150円/本)の実績額	千円	5	5	6	6	7	7
	実績	千円		4				

事業効果
ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況
A：予定を超えて実施できた
B：予定どおり実施できた(10割実施)
C：予定近く実施できた(8~9割程度)
D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
E：予定の5割未満

総合評価
1：効果的に実施できた
2：ほぼ予定通り実施できた
3：予定通り実施できなかった

基本方針 3 地域資源を活用し、にぎわいのあるまちをつくる

基本施策 3-3 農業のさらなる活性化

産業	施策内容	①将来に向けた農業基盤の整備	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	産業	主な取り組み	・鳥獣害被害防止対策	ウ	C	・獣害防止対策について、有害鳥獣駆除ではイノシシ(成獣)194頭、シカ(成獣)704頭、サル(成獣)48匹等の駆除の行い、農業基盤の強化を図った。 ・町内10地区(10組織)が多面的機能支払交付金を活用し、共同作業による農地の保全活動を支援できた。 ・茶園等再生支援事業を通して7件、0.8haの遊休農地の解消を行った。	一定の効果があり、継続的に取り組む		農業基盤整備に一定の効果があった
・農道、農業用施設の整備			エ	D					
・多面的機能支払制度の推進			イ	B	総合評価		2	総合評価	2
・茶園等再生事業補助			イ	B					
産業	施策内容	②農業担い手の育成	事業効果	進捗状況	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	産業	主な取り組み	・認定農業者の育成	イ	B	・認定新規就農者1名を新たな担い手として確保できた。また、認定新規就農者から認定農業者へのステップアップに対し、関係機関と連携して支援を行った。 ・人農地プランは1地区で実質化済み。他1地区で実質化の目途がたった。 ・農地中間管理事業を活用し、3.8haの農地を担い手に集積することができた。	一定の効果があり、継続的に取り組む		担い手育成、中間管理機構の活用等、農業振興に効果があった
・新規就農者支援事業			イ	B					
・人・農地プランによる集落営農の促進			イ	B	総合評価		1	総合評価	1
・農地中間管理事業による集約化			イ	B					

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
産業	人・農地プラン策定数	件	0	2	2	3	4	5
	上記計画の策定件数(積み上げ)	件		1				
産業	多面的機能支払交付金を活用した組織数	件	10	10	10	10	10	10
	交付金によって支援する組織数	件		10				

事業効果
ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況
A：予定を超えて実施できた
B：予定どおり実施できた(10割実施)
C：予定近く実施できた(8~9割程度)
D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
E：予定の5割未満

総合評価
1：効果的に実施できた
2：ほぼ予定通り実施できた
3：予定通り実施できなかった

基本方針 4 いつまでも自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくる

基本施策 4-1 安心で安全な生活環境の構築

みらい・ 教委・ 建水	施策内容	①安全で安心な生活圏づくり	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価	委員会による外部評価
	主な取り組み	・自主防災会の組織力向上支援	イ	C	・コロナ禍により訓練等の実施ができなかったが、独自訓練を実施された地区も少なからずあった。 ・通学路交通安全プログラムへの搭載箇所を新たに11追加し、17か所については安全対策を実施できるよう関係機関と協議を行い、3箇所の対策を完了した。 ・公共施設を改修する際にユニバーサルデザインを取り入れる。	一定の効果があり、継続的に取り組む	・通学路の安全対策が進み、一定の効果があつた
		・通学路の交通安全対策の徹底	ア	A			
・ユニバーサルデザインによる地域づくり	ウ	C	総合評価	2		総合評価	2
みらい	施策内容	②交通ネットワークで地域と人をつなぐ	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価	委員会による外部評価
	主な取り組み	・新公共交通実証事業による交通弱者支援	ア	A	・町営バス、路線バス運賃助成券ともに、多くの利用があつた。利用者の住み分けも確立された。	一定の効果があり、継続的に取り組む	・バスの利用等、公共交通の利用促進に効果があつた ・有効な事業であり力を入れて取り組まれたい
		・既存のバス路線の維持と利用促進	ア	A			
			総合評価	1		総合評価	1
建水・ みらい	施策内容	③強靱なまちを支えるインフラ整備等	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価	委員会による外部評価
	主な取り組み	・災害に強い生活道路の確保	イ	B	・当初予算で計画していた工事については全て完了することができた。 ・浄水場更新工事を行っている。(半導体不足のため翌年度繰越) ・耐震化促進も実施できたが更なる住民周知等に取り組んでいきたい。	一定の効果があり、継続的に取り組む	・道路整備等を実施し、まちのインフラ強化に効果があつた
		・安全で安定した水の供給のための計画的な施設更新	イ	C			
・住宅の耐震化促進と空き家の発生抑制		イ	B	総合評価		1	総合評価

指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい 地区が自主的に実施した訓練回数 町内の自主防災組織が自主的に実施した防災訓練の年間回数	回	16	20	24	28	32	37
実績	回		7				
みらい 町営バス利用人数 町営バスの年間利用者延べ数	人	902	950	1,000	1,050	1,100	1,200
実績	人		899				

事業効果

- ア：地方創生に非常に効果的であつた(目標値を達成した場合)
- イ：地方創生に相当程度効果があつた(目標値の8~9割達成した場合)
- ウ：地方創生に効果があつた(目標値の5~7割達成した場合)
- エ：地方創生に対して効果がなかつた(進捗がみられない場合)

進捗状況

- A：予定を超えて実施できた
- B：予定どおり実施できた(10割実施)
- C：予定近く実施できた(8~9割程度)
- D：予定には及ばなかつた(5~7割程度)
- E：予定の5割未満

総合評価

- 1：効果的に実施できた
- 2：ほぼ予定通り実施できた
- 3：予定通り実施できなかった

基本方針 4 いつまでも自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくる

基本施策 4-2 いつまでも元気に自分らしく暮らせる地域環境づくり

長寿	施策内容	①健康づくり・介護予防の推進	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価	委員会による外部評価			
	主な取り組み ・まちウォーキングで暮らしにプラス ・茶き茶きポイント事業 ・カフェや集いの場など地域での健康づくり			エ	E	・ウォーキング事業は町内コースを選定し、4年度イベント開催に向けての協議を行った。 ・ポイント事業、集い場はコロナ禍のため休止や縮小しており、実施困難な状況。今後、新たな実施方法を模索、定着させていく必要がある。 ・手法等を要検討	総合評価 3	・コロナ禍で実施できなかった事業について、手法等を検討されたい 総合評価 3		
教委・長寿	施策内容	②生涯活躍できるまちづくり	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題				行政内部による評価	委員会による外部評価
	主な取り組み ・ニーズに応じた生涯学習講座の開設 ・お助け隊からシルバー人材センターへの移行		イ	B	・生涯学習講座は年度ごとに新規講座と入れ替えながら実施。R3年度は3講座を新規に行った。まち歩き講座は60～70代の参加が多い。 ・有志による老人会へのアンケート調査が行われ、その際の相談や結果資料作成等、後方支援を行った。来年度に向けての準備のため、意見交換等担当者において行い、検討に係る予算計上を行った。				・一定の効果があり、継続的に取り組む ・未実施項目については手法等を検討	・生涯学習講座の実施等、一定の効果があった ・シルバー人材センターについては多角的に検討されたい 総合評価 2
			エ	E						
総務・教委	施策内容	③地域コミュニティの活動促進	事業効果	自己評価		取組実績と今後の課題	行政内部による評価	委員会による外部評価		
	主な取り組み ・地域の環境整備支援 ・地域伝統・文化財の保護活動支援		ウ	B	・各種環境施設整備、地区集会所の改修等、地域の環境整備に対し補助金を交付。 ・地域の伝統行事に対し、町補助金や民間の助成金を活用し、必要な物の整備を実施。コロナ禍により今年度も中止した行事は多いが、町民の意識は高い。	・一定の効果があり、継続的に取り組む	・各種補助金の活用等、地域コミュニティの活動促進に効果があった 総合評価 1			
			イ	B						

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
長寿	<b>重度要介護認定率</b> 要介護3以上認定者数の第1号被保険者数に占める割合	%	6.4	6.4	6.3	6.3	6.2	6.2
	実績	%		7.1				
長寿	<b>お助け隊(シルバー人材センター)延べ利用件数</b> お助け隊あるいはシルバー人材センターを利用した件数	件	58	60	65	70	75	80
	実績	件		55				
総務	<b>各地区への補助金交付件数</b> 環境施設整備補助金などの件数	件	51	52	53	54	55	56
	実績	件		58				

事業効果

- ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
- イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8～9割達成した場合)
- ウ：地方創生に効果があった(目標値の5～7割達成した場合)
- エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況

- A：予定を超えて実施できた
- B：予定どおり実施できた(10割実施)
- C：予定近く実施できた(8～9割程度)
- D：予定には及ばなかった(5～7割程度)
- E：予定の5割未満

総合評価

- 1：効果的に実施できた
- 2：ほぼ予定通り実施できた
- 3：予定通り実施できなかった

基本方針 4 いつまでも自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくる

基本施策 4-3 持続可能な行政運営の推進

総務・出納	施策内容	①行政サービス・行政運営へのICTの活用推進	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	総務・出納	主な取り組み	・行政手続きのデジタル化推進	イ	B	・電子申請ツールを導入し総合健診申込、職員採用試験申込、各種行事の参加申込等を電子化。水道関係業務にて共同クラウドの活用をおこなった。今後、DX推進としてデジタル活用による行政サービスの向上、事務の効率化を目指す。 ・R3年度にPayPayとLINEPayが実績として増えた。今後の課題は窓口のキャッシュレス化だが、決裁手数料との費用対効果を考える必要がある。	・一定の効果があり、継続的に取り組む		・デジタルツールやキャッシュレス決済導入等、行政サービスのICT活用に効果があった
・キャッシュレス決済の普及			ウ	B					
・共同クラウドの活用推進			イ	B					
・オープンデータの導入			ウ	C	総合評価				
みらい	施策内容	②広域連携の推進	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	みらい	主な取り組み	・定住自立圏構想の推進	イ	B	・近隣6町でスーパーシティ特区を申請した。スーパーシティには採択はされなかったものの、デジタル田園都市国家構想に沿いながら6町が連携する事業に参画し、地方創生に取り組んでいる。	・一定の効果があり、継続的に取り組む		・デジタル田園都市国家構想等、広域連携に効果があった ・住民にわかりやすい広報を検討されたい
・近隣市町との協働プロジェクト			ア	B					
					総合評価				
みらい	施策内容	③脱炭素社会実現に向けた持続可能な社会づくり	事業効果	自己評価	取組実績と今後の課題	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	みらい	主な取り組み	・SDGsやCO <sub>2</sub> 排出量の実質ゼロ等に関する町からの情報発信	イ	B	・令和3年4月に近隣6町でゼロカーボン宣言をした。また、再エネ計画作成にもとりかかっている。 ・SDGsについては、担当職員が研修に参加している段階。	・一定の効果があり、継続的に取り組む		・ゼロカーボン宣言、再エネ計画等、持続可能な社会づくりに効果があった
・持続可能な社会へのアプローチ			イ	B					
					総合評価				

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
総務	ICT等を活用した新規取り組みの件数	件	4	4	3	3	3	3
	ICT等を活用した事業の実施件数			4				
	実績	件		4				
みらい	定住自立圏構想の進捗状況	%	70	80	90	100	100	100
	「伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン」に基づく進捗状況			77				
	実績	%		77				
建水・みらい	脱炭素社会実現に向けた町の姿勢の表示		100					
	新たに策定する町の計画にSDGsやCO <sub>2</sub> 排出量実質ゼロに関する姿勢を表した件数	%	(5/5)	100	100	100	100	100
	実績	%		100				

事業効果
ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況
A：予定を超えて実施できた
B：予定どおり実施できた(10割実施)
C：予定近く実施できた(8~9割程度)
D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
E：予定の5割未満

総合評価
1：効果的に実施できた
2：ほぼ予定通り実施できた
3：予定通り実施できなかった